

【大田市】

校務DX計画

大田市は、文部科学省の示す校務 DX の在り方に合わせて、学校におけるFAXでのやり取りや押印の原則廃止を促すとともに、グループウェア「デスクネッツ」による連絡の迅速化とペーパーレスの推進、及び Microsoft Teams 等を活用した児童生徒との連絡、教職員間の情報共有による校務の効率化を進めてきた。

また、教職員が校務に費やす時間と労力を削減するためには、不合理な手入力作業の一掃に取り組む必要性があったことから、校務支援システムの導入に向けて、浜田教育事務所管内の 3 市 3 町（浜田市、大田市、江津市、邑南町、美郷町、川本町）による共同調達の方向で協議を行ってきたところである。令和 3 年度からシステム調達の具体的な作業に入り、令和 4 年度に公募型プロポーザル方式による業者選定を経て、3 市 3 町による統合型校務支援システムは、令和 6 年 1 月（令和 5 年度）に仮稼働、同年 4 月（令和 6 年度）から本稼働の運びとなっている。

これにより、3 市 3 町における児童生徒データや教職員データ、子ども達の支援の記録や指導の記録などをプライベートクラウドで安全に管理し、統合的な利用が実現することとなり、システムや帳票を共通化することで業務の標準化・業務改善を図り、教職員の業務負担の軽減及び教育の質的向上を図っていくことが可能となった。

今後の課題としては、当初想定できなかった帳票の使用方法についての検討や操作研修の実施やヘルプデスクの活用を促進しながら、教職員がシステムの機能をフルに活用できる環境を構築していくことが急務となっている。

《次世代校務デジタル化への課題》

大田市は、令和 6 年度から、周辺 3 市 3 町による統合型校務支援システムの運用を開始したが、文部科学省が提唱する次世代校務デジタル化へはいくつかの課題がある。

- ・ 校務系と学習系のネットワーク統合
- ・ 校務支援システムと周辺システムのクラウド化
- ・ 教員用端末の 1 台化、ロケーションフリー等の環境整備による校務
- ・ ゼロトラストの概念に基づいたセキュリティ対策の構築
- ・ ダッシュボード整備・データ連携

に向けた取り組みが必要であるという認識のもと、県が主導する県域統一の校務支援システム共同調達の動きにも連動しながら、次世代に向けた学校現場の最適なネットワークシステムの構築、及び状況に合わせた情報セキュリティポリシーの見直しに向けた調査・検討を進めていく。